

やまなし農村発見マガジン

耕 輝

～KOUKI～

第17号



ふるさと・水と土基金事業

Furusato Mizu to Tsuchi



やまなしの農業・農村には豊かな資源や文化があります。それらは長い間農業を営むことで守られており、さまざまな働きを持っています。



県では農業・農村を守るため、中山間地域に対して「ふるさと・水と土基金事業」として、様々な取り組みを支援します。



やまなし農村風景
写真コンクール

花の郷こせえるじゃん甲斐
プロジェクト



てんだうじゃん甲斐
プロジェクト

詳しくは

山梨 水と土基金



CONTENTS

山梨県”初”指定棚田地域
富士川町 平林の棚田 02

多摩川源流大学の取り組み
～都会ではできない体験を～ 04

効率の良い農業を目指して
～樹園地の区画整理～ 06

日本名水百選
八ヶ岳南麓高原湧水群 三分一湧水 08

耕輝 ～KOUKI～

「やまなし農村発見マガジン 耕輝 ～KOUKI～」は、
県内各地における担い手の取り組み、6次産業化、
農業農村整備事業などのホットな話題を提供する
情報マガジンです。

表紙写真

第14回やまなし農村風景写真コンクール
入選「Green world 2020」
※一部トリミング加工をしています

山梨県 NN広報動画公開中！！

○ 山梨県では、農林水産省のNN広報プロジェクト「1都道府県1動画づくり」の一環として、
山梨県のNN(農業農村整備事業)の広報動画を制作しました。
この広報動画では、耕輝の第11号でも紹介した「畑地帯総合整備事業 明野地区」
(北杜市明野町)の取組事例を公開しています。

○ 動画は現在、YouTubeの農林水産省チャンネル(maff channel)にて公
開中ですので、YouTubeで「明野地区」と検索していただくか、下記のURL
またはQRコードにアクセスしてみてください。

<https://www.youtube.com/watch?v=fknD2w7Fwt4>



NN(農業農村整備事業)とは

NNでは、①ほ場や水路、農道などの農業用施設を整備することで、農業の生産性向上を図る「農業生産基盤の整備」と、②集落道・集落排水施設・農村公園等の整備することで、農村を豊かで住みよい環境とする「生活環境の整備」、③ため池や排水路等の整備をすることで農村地域の防災機能の強化を図る「防災・減災対策」の3つを中心として整備を行っています。

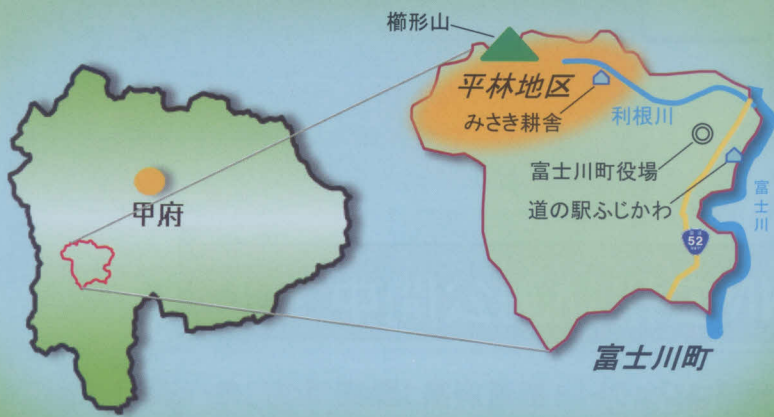
これらを一体的に推進することで、農業・農村の持続的な発展と、住みよい農村づくりを目指しています。

山梨県初指定棚田地域

富士川町 平林の棚田



平林地区より望む棚田・民家と富士山



富士川町 平林地区

富士川町は山梨県の南西部に位置し、富士川の右岸から榊山の山麓にかけて広がる自然豊かな町です。町の市街地から西に向かい、利根川沿いの県道を車で上ること15分、深い山の中に突然現れる大きな集落が平林地区です。

この平林地区は、榊山の麓、標高700〜800mに位置し、山の斜面に民家と棚田が広がる美しい農村地域であり、地区では富士山も同時に望めることから「富士山を眺める棚田の里」として人気のスポットにもなっています。

指定棚田地域

指定棚田地域とは、勾配が5%以上の棚田が1ha以上ある地域の中から、申請に基づいて国が指定するものです。指定には、棚田の維持や地域振興に向けた活動を行う組織があることなど、一定の基準が設けられています。

令和3年2月、平林の棚田が県内で初めて指定をされました。



棚田オーナーによる田植えの様子と棚田の四季



棚田での活動

棚田は美しい農村景観を創出する一方で、機械の導入が難しく、農家にとっては管理の難しい農地でもあります。このような理由から、平林では地区外に住む方々に棚田を貸し出し、新たな担い手として田植えや収穫を体験してもらおう「棚田オーナー制度」を行っています。

また地域住民の組織によって、多面的機能支払交付金等の制度を活用しながら、石積みや農道の点検、補修等の棚田の保全活動が行われています。

多面的機能支払交付金とは？

多面的機能支払交付金は、農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るための地域の共同活動に係る支援や、地域資源の適切な保全管理の推進のために活用されている交付金です。

平林の棚田では農地や水路、石積み、あぜなどの維持管理活動などに活用されています。



教育の場 生態系の創出
農地が持つ多面的な機能
 美しい景観 食料の生産 洪水の防止

写真の「秋」バージョンのほかに、雪景色が広がる「冬」バージョンも用意されています

裏面には棚田に関する情報が書かれている「棚田カード」

カードホルダーとして使える棚田めぐりガイド



棚田カード

平林の棚田については、地域の情報がコンパクトにまとめられた「棚田カード」が作成されており、平林地区の交流拠点である「みさき耕舎」内の売店にて配布されています。

また、多面的機能支払交付金による保全活動や周辺の観光情報を紹介した、カードホルダーとして使える「棚田めぐりガイド」も作成されています。こちらは道の駅富士川情報コーナーと、富士川町役場産業振興課（本庁舎東別館）にて手に入れることができます。



多面的機能支払交付金を活用した石垣の修繕活動

新たな交流の場の創出

町では、平林地区に新たな農業体験宿泊施設を整備することを計画しています。平成27年に閉校になった旧増穂西小学校跡地を活用し、通年利用できる宿泊施設を整備することで、農村で栽培される農産物や四季折々の風景を、今まで以上に堪能できるようになります。

日本の原風景が広がる平林地区



多摩川源流大学

の取り組み

都会ではできない経験を

こすげむら
小菅村

甲府

源流大学のフィールドである小菅村は平坦な畑はほとんどなく大きなトラクターは入れません。このような厳しい環境の中では「手作業」での農業がメインとなります。

1年目の基礎コースでは基本的な農作業の手順、鍬や鎌の使い方等、小菅村に適した農業を学びます。2年目の応用コースでは農家に弟子入りし、一緒に作業することで大学の実習だけでは体験できない源流域での農業の大変さや生活の知恵などを体験できます。

1年間の最後には村で活動報告会を行い、村の皆さんに学んだことや感じたことを発表します。

学べること...

多摩川源流大学（以下、源流大学）とは都市部の複数の大学が行っている体験型人材育成プログラムの名称です。「食べ物や暮らしの根源を体と心で実感し、生きるための実践力をつける」ことを目的として、平成18年に文部科学省の支援を受けて始まり、廃校となった小菅小学校白沢分校を活用し開校しました。年間で延べ2千人を超える学生が活動に参加しています。また、学生のみならず一般の方が参加できるプログラムも行っています。

多摩川源流大学とは



～農業体験の様子～



廃校となった小菅小学校白沢分校を活用した源流大学校舎



耕作放棄地の解消

～源流放課後の会～

源流放課後の会は、「もっと小菅村で活動したい」「村の人から多くのことを学びたい」と学生が自主的に、田んぼの活動以外にも村内の畑を借りて農業やワサビ田の修繕等の幅広い活動を行っています。



収穫したお米は学校給食や村内の神事に活用！

源流大学では、これまでに小菅村内の28アールの耕作放棄地を開墾して実習で活用しています。また、源流大学生の有志で設立した「源流放課後の会」では、35年間も耕作放棄地だった田んぼを村の方々から復元方法を教わり、復活させました。この田んぼは代々学生達に受け継がれ、村の方々と一緒に田植えや稲刈りといった作業を行う交流の場、新たな活動へのきっかけづくりの場となっています。

地域のための源流大学

活動報告会



毎年開催する活動報告会では多くの住民が聴講しています。学生達から農業実習の感想や村の伝統文化、食文化に係わるユニークなアイデアなど農山村の活性化に向けた様々な提案があります。小菅村の方々にとっては普段気付かない村の自然的・文化的価値や魅力を再認識する機会となり、村づくりに向けた良い刺激になっています。

住民講師

源流大学の実習では実習内容に応じた住民の方々が登場となります。はじめは「何を教えたら良いかわからない」と遠慮がちな様子でしたが「畑仕事など学生とともに作業して、逆に勇気づけられた」「若返った気がする」などの声もあり、地元住民たちの活性化に繋がっています。



今後の源流大学の展開

現在、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で源流大学の学生向け実習は中止を余儀なくされていますが、感染防止対策を徹底した社会人向けの新たなプログラムを展開し、有志の生徒を受け入れていきます。また、源流大学では講座を自分で作ることができ、自分の頭の中にある「講座にしてみたいこと」をイメージしてエントリーシートに記入してみようか？あなたのイメージが地域の発展に繋がるかもしれません。

小菅村の新名物「じゃがいもアイス」



小菅村の農産物を利用することをテーマに開発されたスイーツが「じゃがいもアイス」です。源流大学の学生が地元の方々と一緒に栽培した無農薬・無化学肥料のじゃがいもを使用しています。「キタアカリ」「シャドークイーン」「ノーザンルビー」小菅村在来種である「富士種」といった4種類のアイスがあり「道の駅こすげ」で販売されています。

効率の良い農業を目指して ～樹園地の区画整理～



写真：山梨市（万力）

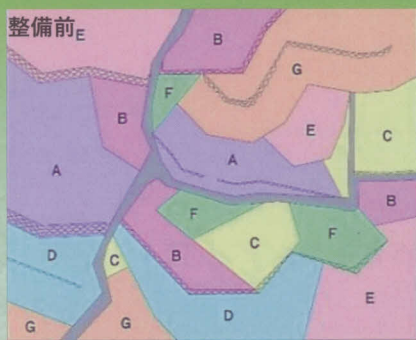
山梨県峡東地域

県内の樹園地面積の約65%を占めているのが峡東地域（山梨市・笛吹市・甲州市）で、ぶどうやももなどを中心に農業が盛んに行われています。「フルーツ王国やまなし」を支えている峡東地域ですが、農地が傾斜地に多いことや道が狭いなど様々な課題があります。これらの課題を解消するため、樹園地の区画整理が行われています。

区画整理ってなに？

農地や水路、農道を一体的に整備し農地を使いやすくすることを区画整理（ほ場整備）といいます。

未整備で労働条件が悪い農地や高齢化による耕作放棄地の増加など地域が抱える問題に対し、区画整理を導入して耕作放棄地を解消したり、農作業の効率化や新たな担い手への農地集積などを図ります。



～整備前の状況～

- 1区画が小さく畑の形状が悪い。
- 所有する農地が分散している。
- 道が狭く、傾斜が大きいため農機具の搬入が困難で営農をやめてしまう。



～整備後の状況～

- 農地を集約し区画を拡大することで作業や貸借がしやすい農地になる。
- 道が広くなり、安全かつスムーズな移動ができる。
- 農業用機械の搬入が容易になり、農作業の負担が減少する。



写真：甲州市（神金）



地域の農業を守りたい。



【万力地区】

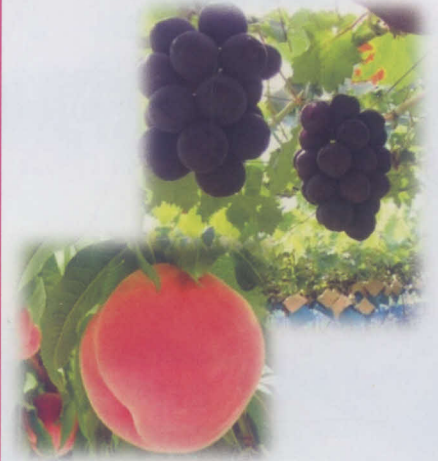
辻 勝久 氏 (右)

山下 実 氏 (左)

以前は、幅員が狭く砂利道の農道で、農地は傾斜がきつく、農業機械も入らないため噴霧器を背負っての防除作業を行っていました。

この地域の農業を守っていくために何とかしたいと考えていた時に、区画整理の事業があることを知りました。地域では様々な問題があり、計画を立てる段階ではどのように進めればよいのかと悩んだこともありましたが、県や市が助言をしてくれました。

区画整理を行ったことで、農道が拡幅され、車両が安全にすれ違えるようになり、収穫物の荷痛みが少なくなりました。また、農地が緩やかに整備されたことにより、スピードスプレーヤーなどの農業機械を使った防除作業が可能になり、農作業の負担が軽減されました。事業が完了して地域の農業は非常に盛り上がっています。



※峡東地域で栽培されている
ブラックキング (写真上)
夢みずき (写真下)

畑が広くなり防除作業などの 農作業の負担が軽減！



※スピードスプレーヤー (通称：SS)



農作物の収量、品質が向上！



農道が広くなり、 出荷がスムーズに！





日本名水百選 三分一湧水

名水百選 「八ヶ岳南麓高原湧水群」
やつがたけなんろくこうげんゆうすいぐん

八ヶ岳南麓高原湧水群は、山梨県北杜市の北西部に位置しています。

湧水群の代表的なものに、三分一湧水、大滝湧水、女取湧水などがあり、その他にも八ヶ岳南麓には、50箇所以上の湧水があるとされています。

三分一湧水の歴史

三分一湧水の由来は、その昔湧水の利用をめぐり長年続いた水争いを収めるため、一つの湧水の水を三分割して、三方向に水を流したことからきています。

諸説あるようですが、先人の知恵で分水池（池）の真ん中に三角石を置くことで、三方向へ均等に分水されるようです。

江戸時代までは、複数の湧き水が集まった池のようなもので、湧水から数メートル下流に木で枠組みされた水門で分水していました。

大正時代になると水漏れする木材ではなく、石造りの分水池が作られたようです。昭和18年9月の大雨による土石流で跡形もなく押し流され、その後作られた分水池が現在使われているものです。

三分一湧水の言い伝え

八ヶ岳山麓はしばしば山津波に襲われ、小荒間の人々はこれを「押し出し（おんだし）」とって恐れていた。天保の頃、小荒間に押し出しがあり、山のような濁流が押し寄せてきた。

その濁流に乗って一匹の白蛇が流れ下り三分一のあたりで姿を消したという。それ以来、三分一の主は白い蛇だといわれ、湧水口を壊したり、裏山の木を切ったりすると、白蛇の怒り触れると言われるようになった。

（参考資料 三分一湧水館）



名水百選とは

環境庁（現環境省）が、全国に多く存在する清澄な水について、全国の人に広く知ってもらい、水質保全への認識を深め、優良な水環境の保護を目的としています。

全国の湧水や河川の中から名水百選（昭和60年）と平成の名水百選（平成20年）の併せて200箇所を選定しています。

日本一の名水の里 北杜市

山梨県北杜市では、昭和の名水百選に八ヶ岳南麓高原湧水群（三分一湧水、大滝湧水、女取湧水）、白州・尾白川の2箇所が選ばれています。

また、平成の名水百選に金峰山・瑞牆山源流の1箇所が選ばれています。全国で1つの市の中に3箇所あるのは北杜市だけです。



公園内には、昭和18年の災害復旧の功績と山津波が周期的に起こることを後世に伝えるため「大荒れの碑」として残されている。

（参考資料 三分一湧水館、北杜市HP）

三分一湧水はどこまで流れているの？

標高1035mの湧水から標高640mの水田まで、標高差約400m、距離にして10数kmも流れ、広範囲の水田で農業用水として現在まで使われています。途中、いくつかのため池がつけられ、水量を調整しています。

こうしてみると、三分一湧水で分水された水が下流では一度も交わることがなく、見事に各地区へ水が供給されているのがわかります。



三分一湧水の現在

周辺は、元は代々「水元」と敬称され、湧水の維持管理を務めた坂本家の所有地でしたが、平成14年に長坂町（現在の北杜市）に譲られ、公園として整備されています。

すぐ隣には、「三分一湧水館」があり、展望台を兼ねた農村資料館、農産物加工販売施設、そば処が一体化した複合施設となっています。

直売所には採れたての野菜や加工品が並んでおり、そば処で地粉で作る手打ちそばを是非召し上がってみてはいかがでしょうか。



【所在地】
 山梨県北杜市長坂町小荒間292-1
 三分一湧水館・直売所 9:00~17:00
 ☎0551-32-0058
 (火曜定休、GW・7~8月無休、元日休業)
 そば処三分一 11:00~15:00
 ☎0551-32-8318
 (火曜定休、GW・7~8月無休、元日休業)

ハケ岳南麓の湧水で育った農作物が並んでいますので、お越しの際は是非立ち寄ってみてください。

整備された公園内には遊歩道や木の椅子などがあり、夏でも木陰となっているので、散歩道にいかがですか。

9 (参考資料 三分一湧水館、北杜市提供)



Keiji_MuscatBucho



できたよー！

新しいロゴ



Keiji_MuscatBucho

「おいしい未来へやまなし」は山梨県産農畜水産物をPRするためのキャッチフレーズです！

美味しいだけではなく、高品質や安心安全、SDGsなどの環境に配慮した栽培を行っているものなどを対象としています。

今後、みなさんの目に触れることが多くなると思いますので、ぜひお手にとってみてください！ (^_^) /

#農政部長 #シャインマスカット部長 #私がロゴになりました #料理男子 #富士の介 #甲州牛 #富士桜ポーク #新鮮野菜 #おいしいブドウとモモ

